



フィンテック グローバル株式会社

FGI

<http://www.fgi.co.jp/>

FinTech Global Incorporated

The firm of innovative financing

フィンテック グローバル株式会社

本社 〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-28
虎ノ門タワーズオフィス 19F
Tel. 03-5733-2121 (代表)
Fax.03-5733-2124

証券コード：8789

第 16 期
事業報告書
2009.10.1~2010.9.30

株主の皆様へ

「再始動」、まさにそれが当社グループの現状です。上半期のご報告では「守勢一色であった直近2年半、最後の格闘の記録」と申し上げました。株主の皆様にも長らくご心配をおかけした財務状況は、2010年2月にユーロ円CBの繰上げ償還を完了し、有利子負債を大幅に削減、2010年9月期において当社グループの財務的課題は完全に解消したと認識しています。

全産業界では企業再生をキーワードにファイナンシャルアドバイザーへのニーズは増大し、地方公共団体など財政健全化に向けて専門家の支援を必要とする分野も広がっています。こうした環境下、金融・財務支援の専門家集団として卓越した存在感を発揮するために、当社グループは経営資源をさらにコア事業に集中いたします。2010年9月期にはグループ内ノンコア事業の整理を進め、2011年9月期に入りグループ機能の再編を行いました。今後は投資銀行事業とアセットマネジメント・アドバイザー事業をフィンテックグローバル証券(株)とフィンテックアセットマネジメント(株)に集約し、当社はグループ全体の統括・管理および資金マネジメントを行う持株会社的な機能に特化してまいります。さらに一層、役職員一同鋭意邁進してまいります。皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2010年12月
代表取締役社長

玉井 信光

“再始動”の時を迎え

FGI

The Firm of Innovative Financing

FinTechという社名は、FinanceとTechnologyからの造語です。

今後もこの名前に恥じない先進的な「金融技術」を駆使した、より革新的な金融プロダクツを組成(製造)し続け、クライアントの皆様のご信頼に応えるよう努めてまいります。

フィンテックの事業



コア事業に邁進します。

財務的課題をクリア 事業拡充と収益力強化に向けて再スタートへ

Point 1 CBを繰上償還 有利子負債を大幅に減少

2010年2月にユーロ円建新株予約権付社債の繰上償還を完了

- 当期に買入消却4,190百万円、繰上償還2,560百万円を実施。CB残高を6,750百万円減少させ、1,200百万円となりました。

有利子負債を大幅に削減し、財務を健全化



Point 2 投融資を圧縮しつつも、将来に向けて案件創出力の強化

財務基盤強化に向けて投融資を圧縮



投資家からの資金を導引する案件創出力を強化 企業再生のための総合的な財務コンサルティングとそこから派生する顧客資産流動化や債務整理、スポンサーとしての支援業務へのニーズに対応する中で、投融資案件を創出し、開拓してきた投資家のニーズとのマッチングを行いました。

- 当期中に受託した主な案件：企業再生の財務アドバイザー業務、企業再生のスポンサー契約、不動産案件のリファイナンスアレンジ
- プリンシパルファイナンスを再始動：海外投資家を招聘して不動産案件に共同投資したほか、子会社所有のCBを担保にした調達資金でプリンシパルファイナンスを実行しました。

Point 3 さらに経営効率向上を追求

事業ポートフォリオの見直し

ノンコア事業を整理すべく、2010年2月に(株)イントラストの株式および同社への貸付債権を売却したのに加え、2010年8月にStellar Capital AGの清算手続きを開始しました。

継続的な経費圧縮

一般経費・人件費等の圧縮により、貸倒損失等の損失を除く販管費は前期比965百万円減少しました。

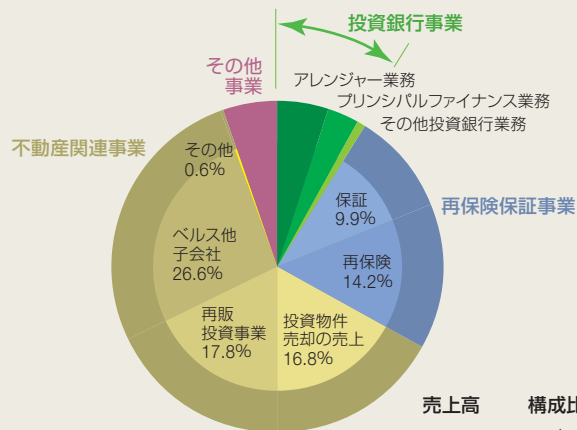
2010年9月期	実績数値(連結)	前期実績
売上高	3,465 百万円	10,385 百万円
経常損失	2,604 百万円	21,197 百万円
当期純損失	2,172 百万円	12,091 百万円

継続企業の前提となる注記の記載解消

当社グループは2008年9月期から2010年9月期第3四半期決算まで営業損失の計上により財務諸表に「継続企業の前提に関する注記」を記載しておりました。しかしながら上記諸施策の成果と今後の資産売却による手許流動性の確保の蓋然性から当社グループの財務リスクは大幅に軽減され、当面の資金繰りに懸念はなくなっているとの認識から、2010年9月期決算において継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められないとの判断にいたり、2010年9月期決算において当該注記の記載を解消いたしました。

セグメント情報

2010年9月期 セグメント別売上高



セグメント	売上高 (百万円)	構成比 (%)
投資銀行事業	316	9.1
● アレンジャー業務	175	5.0
● プリンシパルファイナンス業務	109	3.2
● その他投資銀行業務	32	0.9
再保険保証事業	834	24.1
不動産関連事業	2,141	61.8
その他事業 (公共財関連事業)	172	5.0

(株)イントラストについて

▼第2四半期(2010年2月3日)に、滞納家賃保証事業を行っている(株)イントラストの株式および同社への貸付債権を、(株)プレステージインターナショナル子会社のPrestige International (S) Pte Ltd. に売却し、連結対象から除外いたしました。

2011年9月期からの新事業セグメント

当社グループはグループ機能の再編に伴い、2011年9月期から事業セグメントを下記のようにいたします。(予定)
(主なグループ会社を記載)

投資銀行事業

アレンジメントアドバイザー、証券業務、その他
● フィンテックグローバル証券(株)

アセットマネジメント・アドバイザー事業

アセットマネジメント、フィナンシャル・アドバイザー
その他
● フィンテックアセットマネジメント(株)

プリンシパルファイナンス事業

デットおよびエクイティファイナンス
● フィンテックグローバル(株)(当社)

投資先事業収益

● (株)ベルス
● Crane Reinsurance Limited
● FINTECH GIMV FUND, L.P.

公共財関連事業

公会計用ソフト開発・販売・コンサルティング

● (株)パブリック・マネジメント・コンサルティング

公共ファイナンス等に関する調査・研究コンサルティング

● (株)公共ファイナンス研究所※

公共財に関するアセットマネジメント事業

● (株)公共財アセットマネジメント※

※非連結子会社

- マンション再販など投資事業による収益、投融資の担保資産の処分による収益のいずれもプリンシパルファイナンス事業に区分します。
- コア事業以外の事業への投資は純投資として、その事業収益はプリンシパルファイナンス事業に区分します。

投資銀行事業 売上高 316 百万円(前期比73.1%減)

アレンジャー業務

(ファイナンス案件の組成、投資家等の招聘・調整など)

売上高175百万円(前期比 71.0%減)

厳しいビジネス環境における顧客ニーズの掌握に努め、企業再生の財務アドバイザー業務受託、再建企業とのスポンサー契約、不動産案件のリファイナンスアレンジ等を行いました。前期比では大幅な減収となりました。

プリンシパルファイナンス業務

(企業、事業・プロジェクト等への投融資など)

売上高109百万円(前期比 75.6%減)

CB繰上償還への対応のため、上半期は既存投融資債権(営業貸付金および営業投資有価証券)の回収に注力し、下半期も新規

実行は限定的となりました。そのため当期末における投融資債権の残高の合計額は、前期末より6,118百万円減少し、11,277百万円となり、売上高も前期比で大幅に減少しました。

その他投資銀行業務

売上高32百万円(前期比 74.3%減)

当業務は主に組成案件のアドミニストレーション業務の手数料売上などを計上しています。当社組成案件の減少により、前期比で大幅減収となっております。

- フィンテックグローバル(株)(当社)
- フィンテックグローバル証券(株)
- FINTECH GIMV FUND, L.P.
- フィンテックキャピタルリスクソリューションズ(株)

再保険保証事業 売上高834百万円(前期比46.4%減)

当事業は主に再保険業務、滞納家賃保証業務を行っております。

再保険業務を行うCrane Reinsurance Limitedにおいては、売上計上資料を外部機関の報告書から再保険会社の発行する勘定書に変更した影響により、当期の売上高については第3四半期までのみを計上することとなった結果、売上高は前期比では増加したものの、予想を下回る結果となりました。

なお、滞納家賃保証業務は(株)イントラストの全株式を2010年2月3日に譲渡し同社を連結の範囲から除外したため減収となりました。

- Crane Reinsurance Limited
- (株)イントラスト(2010年2月に全株式売却により連結除外)
- Stellar Capital AG(2010年8月に清算を決議)

不動産関連事業 売上高2,141百万円(前期比71.1%減)

当事業においては、マンション再販投資事業の収益、投資物件の売却や不動産仲介の収益のほか、不動産のアセットマネジメント業務における売上を計上しております。また、クライアントの事業再生に伴って子会社となった(株)ベルス、(株)新栄不動産開発の不動産関連収益も計上しております。

なお、前期比で大幅な減収となっておりますが、これは前期に担保物として取得した物件の売却により5,006百万円の売上計上があったことが、主な要因であります。

- フィンテックグローバル(株)(当社)
- フィンテックグローバル鑑定(株)※
- フィンテックアセットマネジメント(株)
- (株)新栄不動産開発
- (株)ベルス

その他事業(公共財関連事業) 売上高172百万円(前期比 30.9%減)

地方公共団体の公会計用ソフトウェアの開発・販売、公会計コンサルティングからシステム構築・業務運用支援を行う(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングの収益を計上しています。

- (株)パブリック・マネジメント・コンサルティング
- (株)公共ファイナンス研究所※
- (株)公共財アセットマネジメント※

2011年9月期 基本施策

財務基盤の再構築を終了し、
収益力回復に再始動します。

重点テーマ

1. 経営効率・経営構造改革の推進

2. コア事業への経営資源集中

(右図のようにグループ機能を再編いたしました。)

3. 各事業の深化と強化

(中頁をご覧ください。)

4. 財務施策：

減資の実施と財務力の強化

新たな事業推進体制

コア事業に経営資源を集中させるべく、当社から子会社へ営業主体・人材を移管し、当社は事業持株会社としてグループ事業の統括・管理、資金マネジメント(プリンシパルファイナンス事業を含む)に特化します。これにより、グループ経営効率の向上と経営構造改革を推進します。

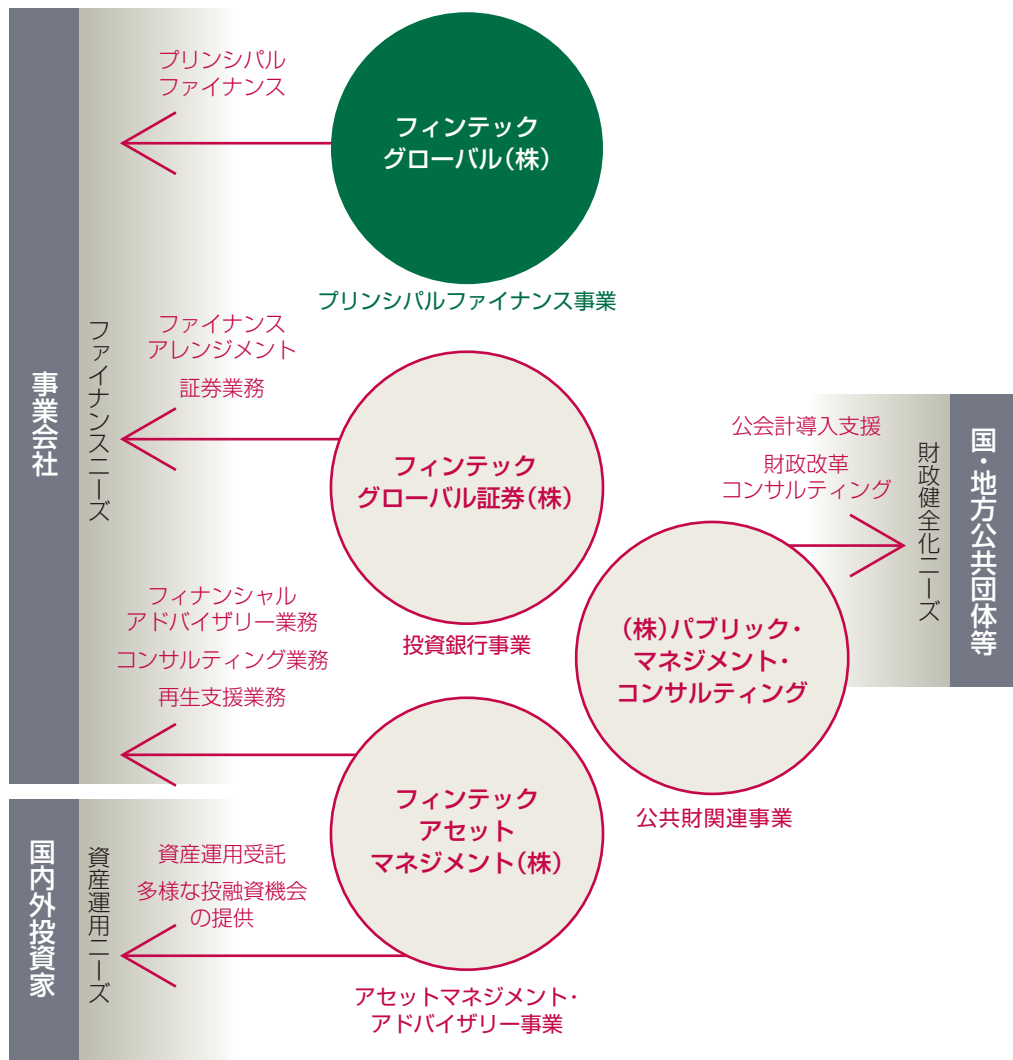


グループ機能を再編し、 本業での強みを最大限に発揮します。

当社のコーポレートアイデンティティは「すべての産業界へ革新的なストラクチャードファイナンスの効用を浸透させる」です。金融環境の変化に応じた先端的・革新的な金融商品や「仕組み」を作り、多様化する顧客のファイナンス・ニーズに対応するとともに、顧客の企業価値、資産価値の最大化を通じて、関係するすべてのステークホルダーの満足を実現するため、抜本的な事業の再編を行いました。

これまで投資銀行事業、アセットマネジメント・アドバイザー事業、プリンシパルファイナンス事業にて培った卓越したアレンジメント・アドバイザー能力と多様な投融資機会の創出能力をさらに発揮し、クライアントのファイナンスニーズ・資産運用ニーズにお応えします。

また収益力強化の観点から、パブリックセクターという新たなマーケットにも積極的に取り組み、公会計・ファイナンスのプロフェッショナルとして、地方公共団体の本格化する財政健全化ニーズへの取り組みを支援してまいります。



コア事業の深化と強化

フィンテックグローバル証券(株)とフィンテックアセットマネジメント(株)を本業における両軸とし、また(株)パブリック・マネジメント・コンサルティングは投資銀行業務から派生した新たな国・地方公共団体からのニーズに対応します。これら3子会社をコア事業と位置づけ、当社はグループ全体の統括・管理、資金マネジメント(含むプリンシパルファイナンス)に特化します。

投資銀行事業

フィンテックグローバル証券(株)

「ブティック型インベストメントバンク」として、顧客のニーズに応じた最適なファイナンスソリューションを提供

1. ファイナンスアレンジメント・アドバイザー

2. エグゼキューション業務受託 グループ内外の会計・税務・法務・鑑定等の専門家と連携し、付加価値あるソリューションを実現

3. 証券業務 第三者割当増資、社債発行、新株予約権発行など、顧客の多様なデット/エクイティ調達ニーズに柔軟に対応

FGIグループ投資銀行事業におけるアレンジメント実績

(2008年10月～2010年9月)

種別	アレンジ金額 (百万円)
事業会社の資産流動化や 事業再生ニーズに対応	
顧客資産流動化アレンジ	7,609
リファイナンスアレンジ	6,030
事業再生アレンジ	3,503
上場企業・第三者割当アレンジ (又はアドバイザー)	439
債務整理アレンジ	185
合計	17,767

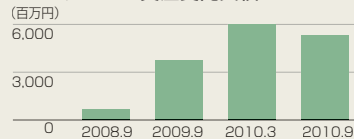
アセットマネジメント・アドバイザー事業

フィンテックアセットマネジメント(株)

国内外資金提供者から資産運用業務を受託する一方、ファンド、または必要に応じて自ら資金を拠出し、事業会社のビジネスソリューションニーズに一体となって取り組みます。

1. アセットマネジメント業務

FGIグループの資産受託実績



*上記は、フィンテックアセットマネジメント(2009年9月よりグループ子会社化)、FINTECH GIMV FUND、その他の合計です。

2. フィナンシャル・アドバイザー業務
3. 経営コンサルティング業務
4. 再生支援業務

FGIグループの事業投資、経営・再生支援実績の一例

金融・会計・法律など幅広い専門知識と実務経験を強みとして、企業の経営・再生支援を行っています。

業種	支援内容
不動産 デベロッパー業	民事再生法申請企業に対し、スポンサーとして参画。第二会社方式で主な事業および従業員を承継後、MBO(マネジメントバイアウト)により再生を完了。引き続き役員を派遣し、営業、管理両面で支援継続予定
建設業・環境 関連事業	民事再生法を申請した建設業・環境関連事業会社とスポンサー契約を締結。今後、株式100%を取得し再生支援を行っていく計画

公共財関連事業

(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング

地方公共団体等への公会計(基準モデル)のシステム開発、販売及び導入コンサルティングを行う。現在まで基準モデルを採用(採用予定含む)する167自治体(総務省調べ2009年度財務諸表)のうち95自治体に導入実績(予定含む)でトップシェアを有する。今後はさらにグループ企業との協働のもと、自治体の財政改革、資産(公共財)の流動化へ支援を拡充。

連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位 千円)

科目	当期末	前期末
	(2010年9月30日現在)	(2009年9月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	5,261,820	14,463,033
現金及び預金	829,661	5,811,512
売掛金	67,083	186,152
有価証券	—	431,098
営業投資有価証券	5,960,043	6,059,149
1▶ 販売用不動産	1,630,622	911,167
繰延税金資産	1,083	1,065
2▶ 営業貸付金	5,317,419	11,336,718
その他	329,447	1,960,718
貸倒引当金	△8,873,539	△12,234,548
固定資産	2,090,609	1,303,031
有形固定資産	150,054	196,647
無形固定資産	442,561	629,990
1▶ 投資その他の資産	1,497,993	476,393
資産合計	7,352,430	15,766,064

1▶ 販売用不動産、投資その他の資産、新株予約権付社債、長期借入金

投資その他の資産には子会社保有の当社新株予約権付社債(額面金額12億円)が投資有価証券として計上されており、この投資有価証券を担保に長期借入金として約9億円を借り入れて、プリンシパルファイナンスを実行し、投資資産として販売用不動産を取得しております。

2▶ 営業貸付金

債権回収(担保実行含む)、引当済の対象債権の損失の確定、貸倒損失等により営業貸付金が減少しました。

3▶ 預り金

営業投資有価証券の売却に伴う預り金450百万円

(単位 千円)

科目	当期末	前期末
	(2010年9月30日現在)	(2009年9月30日現在)
(負債の部)		
流動負債	1,247,720	1,682,247
短期借入金	66,000	175,000
一年以内返済予定長期借入金	125,000	260,000
未払金	92,750	244,418
3▶ 預り金	497,764	608,570
その他	466,205	394,258
固定負債	2,940,154	8,635,980
1▶ 新株予約権付社債	1,200,000	7,950,000
1▶ 長期借入金	1,026,449	245,000
4▶ 保険契約準備金	442,437	170,103
その他	271,266	270,876
負債合計	4,187,874	10,318,228
(純資産の部)		
株主資本	2,577,473	4,762,304
資本金	10,764,317	10,764,317
資本剰余金	10,351,900	10,351,900
利益剰余金	△18,538,744	△16,353,913
評価・換算差額等	△130,878	△108,944
その他有価証券評価差額金	—	△1,477
為替換算調整勘定	△130,878	△107,466
新株予約権	21,811	20,572
少数株主持分	696,149	773,903
純資産合計	3,164,555	5,447,836
負債・純資産合計	7,352,430	15,766,064

4▶ 保険契約準備金

Crane Re / 保険契約増により支払備金が増加しました。

5▶ 売上原価

投資不動産売却等による原価959百万円、営業投資有価証券(FINTECH GIMV FUND)の評価損290百万円

6▶ 販売費及び一般管理費

貸倒損失823百万円、貸倒損失以外の販管費は2,618百万円

7▶ 特別利益

新株予約権付社債償還益448百万円、貸倒引当金戻入益134百万円

8▶ 特別損失

イントラストの株式、貸付債権売却による子会社整理損291百万円

9▶ 少数株主損失

主にFINTECH GIMV FUNDの少数株主に係る損失

連結損益計算書

(単位 千円)

科目	当期	前期
	(2009年10月1日から 2010年9月30日まで)	(2008年10月1日から 2009年9月30日まで)
売上高	3,465,497	10,385,341
5▶ 売上原価	2,530,057	17,711,538
売上総利益又は売上総損失(△)	935,439	△7,326,196
6▶ 販売費及び一般管理費	3,442,291	12,994,837
営業損失(△)	△2,506,852	△20,321,034
営業外収益	65,807	61,381
営業外費用	163,174	937,653
経常損失(△)	△2,604,219	△21,197,306
7▶ 特別利益	619,920	9,955,563
8▶ 特別損失	349,287	175,718
税金等調整前当期純損失(△)	△2,333,586	△11,417,462
法人税、住民税及び事業税	71,838	10,769
法人税等還付税額	-	△15,501
法人税等調整額	16,666	844,491
9▶ 少数株主損失(△)	△249,258	△166,146
当期純損失(△)	△2,172,834	△12,091,075

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位 千円)

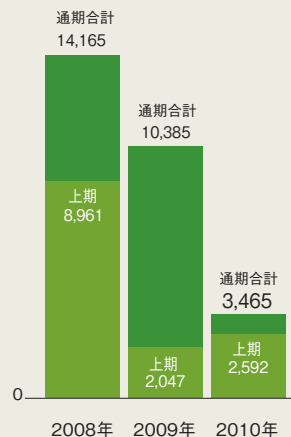
科目	当期	前期
	(2009年10月1日から 2010年9月30日まで)	(2008年10月1日から 2009年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	626,830	8,333,833
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,281,596	7,687,744
財務活動によるキャッシュ・フロー	△3,376,149	△19,674,600
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15,902	△33,853
現金及び現金同等物の減少額	△5,046,818	△3,686,875
現金及び現金同等物の期首残高	5,811,512	9,500,189
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	64,967	-
新規連結に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△1,801
現金及び現金同等物の期末残高	829,661	5,811,512

● 連結財務ハイライト

(各年度10月1日～9月30日)

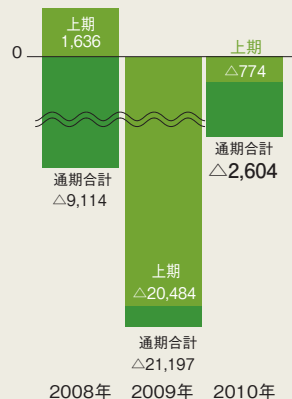
売上高

(単位 百万円)



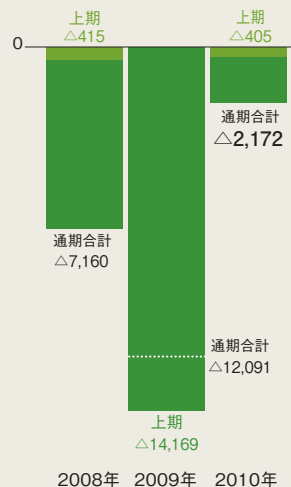
経常利益(損失)

(単位 百万円)



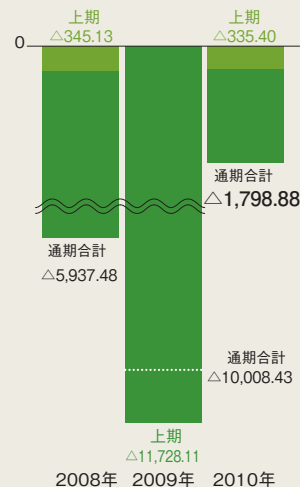
当期純損失

(単位 百万円)



一株当たり当期純損失

(単位 円)



会社概要 (2010年9月30日現在)

フィンテック グローバル株式会社

設立	1994年12月7日		
資本金	107億6,431万7,950円※		
従業員数	連結72名、単体40名(臨時従業員、派遣社員を除く)		
役員	(2010年12月21日現在)		
代表取締役社長	玉井 信光	常勤監査役	二宮 幸一
取締役会長	ロバート・ハースト	監査役	西川 茂樹
取締役	鷺本 晴吾	監査役	萩原 啓史
取締役	三橋 透		

※2010年12月21日の定時株主総会において、「資本金及び資本準備金の額の減少並びに剰余金の処分の件」を決議しております。これは払戻しを伴わない減資であり、発行済株式総数は変更せず、株主の皆様のご所有株式数に影響を与えるものではありません。資本金及び資本準備金の額が減少しますが、繰越利益剰余金が同額増加するため、当社の純資産額にも変更はありません。

なお、減資の効力発生予定日は2011年1月25日であり、効力発生後の資本金は23億1,001万9,204円となる予定です。

経営陣 (2010年12月21日現在)

●取締役



玉井 信光 代表取締役社長

オリックス(株)にて航空機ファイナンスをはじめとするストラクチャードファイナンス手法を用いた金融商品の企画販売業務を担当。その後、保険関連事業の策定・展開、リスクファイナンスや保険をベースとしたプロジェクトファイナンスのアレンジ等を手掛ける。新しいインベストメントバンキング形態を目指し、1994年当社を設立。



ロバート・ハースト 取締役会長

バンカーストラスト、International Finance Corporation(米国)、Citibank NA(日本)にて、デリバティブ、ストラクチャードファイナンスのプロフェッショナルとして活躍。AIG Financial Products Corp.においては、取締役として日本及びアジアにおけるビジネスを統括。Bank AIG (Securities)駐日代表等を経て、2004年6月フィンテックパートナーズ(株)(現フィンテックグローバル証券(株))入社。同社代表取締役会長等を経て、2007年12月当社取締役会長に就任。



鷺本 晴吾 取締役 執行役員 経営管理部長

(株)富士銀行(現(株)みずほ銀行)にて支店長等を歴任。その後、同行審査部、資産監査部において与信審査及び資産監査業務に従事。2004年8月丸善(株)入社、その後、執行役員財務統括センター長に就任。2007年9月より当社管理本部財務部長として財務・経理業務を所管。2009年4月当社執行役員財務部長、2009年12月当社取締役に就任。



三橋 透 取締役 フィンテック グローバル証券(株)代表取締役

(株)三和銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)においてニューヨーク支店、東京法人営業第四部で法人営業を担当。その後、新宿新都心法人営業第一部にて、大企業を担当する部門を統括。2007年2月、当社入社。同年3月に投資銀行本部ストラクチャードファイナンス営業第二部長、2009年4月、当社執行役員 投資銀行本部副本部長。2009年12月当社取締役に就任。2010年10月フィンテックグローバル証券(株)代表取締役に就任。

●執行役員



廖 維舟 執行役員 投資銀行本部副本部長

(株)三和銀行(現(株)三菱東京UFJ銀行)国際業務部、ニューヨーク支店を経て、ロンドン支店にて数々の海外大手企業向けシンジケーションローン案件、MBO案件を手掛ける。2002年より東京ストラクチャードファイナンス部にて航空機ファイナンス等の与信管理を担当。2004年12月、当社入社。2009年4月当社執行役員事業統括部長、2009年12月当社執行役員 投資銀行本部副本部長に就任。

●主要グループ子会社

フィンテック アセットマネジメント(株)

渡邊 基樹 代表取締役

(株)あさひ銀行(現(株)りそな銀行)において融資・渉外業務を担当後、本店ALM(Asset Liability Management)部で短期金融市場を通じた資金ポジション管理業務に従事。2005年当社入社後、投資銀行本部において一貫してストラクチャードファイナンスの組成業務並びにプリンシパル投資業務を担当。2008年1月当社投資銀行本部ストラクチャードファイナンス営業第一部長、2009年4月当社投資銀行本部部長、2010年10月フィンテックアセットマネジメント(株)代表取締役に就任。

(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング

森上 克典 代表取締役

オリックス(株)にて国内企業向けリース営業及び不動産ファイナンス業務に従事し、博覧会遊戯施設のストラクチャードファイナンスを手掛ける。その後独立、国内中小企業向けに金融商品を用いた財務・税務のコンサルティングに従事。2006年10月に当社事業統括部長として入社。経営企画部長、ストラクチャードファイナンス営業第三部長、投資銀行本部副本部長を経て、2009年4月当社執行役員に就任。2010年2月(株)パブリック・マネジメント・コンサルティング代表取締役に就任。

主なグループ子会社 (2010年12月21日現在)

フィンテック グローバル証券株式会社

設立	2004年6月
資本金	4億6,500万円
事業内容	ファイナンスアレンジメント・アドバイザー エグゼクティブ業務受託 証券業務 (第一種金融商品取引業、第二種金融商品取引業)

フィンテックアセットマネジメント株式会社

設立	2005年12月
資本金	1億3,000万円
事業内容	アセットマネジメント業務 フィナンシャル・アドバイザー業務 経営コンサルティング業務 再生支援業務 (投資助言・代理業、投資運用業)

株式会社パブリック・マネジメント・コンサルティング

設立	2008年2月
資本金	1億7,652万5,000円
事業内容	公会計用ソフトウェアの開発・販売・コンサルティング

株式会社ベルス

業務開始日	2007年12月
資本金	667万円
事業内容	職域福利厚生サービス、 不動産売買・賃貸・管理の紹介・斡旋

Crane Reinsurance Limited

設立	2006年3月
資本金	15億円
事業内容	再保険引受

フィンテック グローバル鑑定株式会社

業務開始日	2009年4月
資本金	300万円
事業内容	不動産の鑑定評価

株式会社公共ファイナンス研究所

設立	2009年6月
資本金	5,000万円
事業内容	公共ファイナンス等に関する調査・研究、 コンサルティング、出版・情報サービス

フィンテック グローバル キャピタル合同会社

設立	2006年9月
事業内容	ベンチャーキャピタルファンドに対するアドバイザー業務

フィンテック キャピタル リスク ソリューションズ株式会社

設立	2001年4月
資本金	5,000万円
事業内容	信用補完案件の組成、アレンジメント

株式の状況 (2010年9月30日現在)

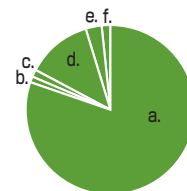
発行可能株式総数	3,084,000 株
発行済株式の総数	1,208,135 株
株主数	11,854 名

●大株主(上位10名)

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
1. 玉井信光	267,755	22.16
2. SIX SIS LTD. (常任代理人 株式会社三菱東京UFJ銀行)	109,958	9.10
3. 藤井優子	52,014	4.31
4. 青島正章	35,325	2.92
5. 財務大臣	20,001	1.66
6. 平野修	13,299	1.10
7. 田村直丈	12,200	1.01
8. 井上晴義	12,150	1.01
9. 柴田敬司	12,000	0.99
10. HIROHISA OHURA (常任代理人 日興コーディアル証券株式会社)	12,000	0.99

●株式分布状況

所有者別	株数	比率
a. 個人・その他	972,214株	(80.47%)
b. 金融機関	11,055株	(0.92%)
c. 金融商品取引業者	16,827株	(1.39%)
d. 外国人	151,915株	(12.57%)
e. その他国内法人	36,123株	(2.99%)
f. 政府及び地方公共団体	20,001株	(1.66%)



株主メモ

事業年度	10月1日～翌年9月30日
定時株主総会	12月
基準日	9月30日
中間配当基準日	3月31日
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ市場(証券コード：8789)
公告の方法	電子公告により行います。ただし、やむを得ない事由により電子公告を行うことができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
公告掲載URL	http://www.fgi.co.jp/japanese/ir/download.html#denshi
株主名簿管理人 事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
郵便物送付先	〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部
電話お問い合わせ先	0120-288-324(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土日祝日を除く)